

THE YOMIURI SHIMBUN 会社案内

読売新聞

ごあいさつ

読売新聞は、2009年11月に創刊135年を迎え、世界最大部数となる1000万部を維持しています。

近年、欧米の有力新聞の倒産、合併等が続出し、紙のニュースを主とする新聞の時代は終わったとの声が出ています。しかし、戸別配達の割合が低い欧米の新聞と、強固な戸別配達網を確立し、返品のない完全注文生産をしている日本の新聞とは、本質的な経営構造が違います。さらに、広告収入依存度が7、8割に達している欧米の新聞と、それが3割程度に過ぎず、7割は安定した購読料収入に依存している日本の新聞との違いがあります。

我々は、ネットによる情報発信を無視しているわけではなく、ヨミウリ・オンライン(YOL)などで様々なネット情報も発信しています。しかし、戸別配達制度とニュースの一覧性、記録性、正確で格調の高い評論、便利で有用な生活情報等を持つ新聞メディアへの需要は、民度の高い日本では衰えることはありません。

その証拠に、読売新聞は1000万部を堅持していますし、全国約30か所の工場と約8000の販売店、約9万人の配達従業員による戸別サービス網は世界に類がありません。先人たちの努力の蓄積により、多くのビル・不動産も所有しています。かつ戦後からの巨額な投資は完全に償却済みで、現在はほぼ無借金経営を続けています。

こうした財務上の実力があるので、大手町の印刷工場を中心とした旧社屋を解体し、この地域で最高層となる新社屋の建設に着手しました。2014年の完成まで、銀座の日産自動車旧本社ビルを借り、移転した次第です。ほとんどの企業が設備投資を控えているなかで、読売新聞が大胆な投資に踏み切れたのは、本社の底力を示すものであります。

社論は、公正・正確・中庸を堅持し、識者や政財官界での評価も確立しています。

また読売巨人軍や読売日本交響楽団、中央公論新社など、音楽、美術等の文化や各種スポーツを含め、多角的な事業を展開しております。大衆紙であると同時に知的高級紙でもある、世界にまれな新聞であります。

健全で普及率の高い新聞は、国と社会の安定のために欠くことのできない存在だと自負しています。

読売新聞グループ本社
代表取締役会長・主筆
渡辺恒雄



渡辺恒雄

読売信条

読売新聞は

責任ある自由を追求する。

個人の尊厳と基本的人権に基づく人間主義をめざす。

国際主義に立ち、日本と世界の平和、繁栄に貢献する。

真実を追求する公正な報道、勇気と責任ある言論により、

読者の信頼にこたえる。

(2000年1月1日制定)

Contents

3 グループ本社会長のごあいさつ

<組織と新聞づくり>

- 4 読売新聞グループ
- 6 取材網
- 8 新聞制作
- 10 販売

<新聞紙面とその他メディア>

- 12 スクープ
- 15 提言報道
- 16 社説・コラム
- 18 医療の読売
- 20 教育の読売
- 22 多彩な大型企画
- 24 伝統と人気の連載

- 26 広告
- 27 英字紙・書籍
- 28 電子メディア

<事業と社会活動>

- 30 芸術・文化事業
- 32 スポーツ事業
- 34 フォーラム
- 35 顕彰事業
- 36 読者とともに
- 38 社会貢献
- 40 読売グループの活動
- 42 読売新聞の歩み

読売新聞グループ

読売新聞は震災や戦災による本社屋焼失など幾多の困難を乗り越え、3世紀にまたがる歴史を刻んできました。先駆的な試みや独創的な取り組みを重ね、1994年以降、世界最大の発行部数1000万部を維持しています。情報通信技術がめまぐるしく進展するなか、読売新聞グループ本社を中心に、未来を拓く総合的なメディア集団を目指しています。

読売新聞グループ本社

1000万部を超える世界最大の発行部数で躍進を続ける読売新聞は2002年7月1日、グループを再編してさらに強靱な体制をスタートさせました。読売新聞グループ本社のもと、東京本社、大阪本社、西部本社の新聞3本社と、球界の盟主である読売巨人軍、日本の論壇をリードする中央公論新社の5社で構成。この5社が「五本の矢」として中核となり、読売日本交響楽団など160を超える関連会社・法人とともに、広範囲にわたる事業を展開しています。

読売新聞東京本社

1874年(明治7年)11月2日、合名会社「日就社」が読売新聞創刊号を刊行しました。1876年(明治9年)に新聞業界で初めて紙型鉛版印刷を開始、1925年(大正14年)には他社に先駆けラジオ・テレビ欄の前身となる「よみうりラヂオ版」を発行するなど、草創期から先進的な取り組みを進めてきました。2002年7月のグループ再編で中部本社が合流、発行エリアは石川、岐阜、三重以東の23都道県に及んでいます。2014年に創刊140周年を迎えます。



東京・銀座の仮社屋

2014年、新社屋が完成

読売新聞グループ本社と読売新聞東京本社は、東京都千代田区大手町の社屋を建て替えるため、2010年9月、中央区銀座の仮社屋(新橋演舞場横)に移転しました。

創刊140周年にあたる2014年初めには、新社屋が完成する予定です。新社屋は、これからの時代に対応できる新聞社の拠点として新しい発想で建設し、同時に最新技術を取り入れて耐震性、環境対策など建物の機能面の向上も図ります。



読売新聞大阪本社

1952年(昭和27年)11月25日に第一号を発行し、2012年に発刊60周年を迎えます。発行エリアは近畿、中国、四国の15府県と三重県の一部。各大学の学長らが将来の大学像を話し合う「大学関西フォーラム」、若い母親らの子育ての悩みに答える「子育て応援団」など紙面と連動した企画をはじめ、さまざまな分野で地域に根ざした情報を発信しています。

奈良国立博物館主催の「正倉院展」に特別協力するなど、文化・伝統の保護・育成への支援も進めています。



中央公論新社

120年余の歴史を刻む中央公論新社は、創業以来、一貫して「良書主義」を掲げ、「中央公論」「婦人公論」の2大雑誌、単行本、全集のほか、中公新書、文庫、叢書、古典シリーズの中公クラシックスを刊行するなど多彩で意欲的な出版活動を展開しています。また、谷崎潤一郎賞、中央公論文芸賞、読売・吉野作造賞の主催など、出版界の発展にも寄与しています。



読売新聞西部本社

1964年(昭和39年)9月23日に発刊し、2009年に45周年を迎えました。発行エリアは、九州7県と沖縄、山口県、島根県の西部(石見地区)です。

読者の強い支持を受け、管内発行部数トップを走り続けています。2004年元日には、北九州市から福岡市に本社を移転し、一段と機能を強化しました。

九州・沖縄・山口エリアから全国に情報を発信する「地域に密着したユニークな全国紙」です。アジアへの窓口としての期待も大きく、この方面にも力を入れています。



読売巨人軍

日本初の職業野球団「大日本東京野球倶楽部」として1934年に創立、日本プロ野球の歴史と共に歩んできました。球界最多の優勝回数を重ね、プロ野球草創期の沢村栄治、川上哲治選手をはじめ、長嶋茂雄、王貞治、原辰徳、松井秀喜選手と、ヒーローを輩出しています。さらに、次世代へ野球の夢を語り継いでいくことも読売巨人軍の務めです。

取材網

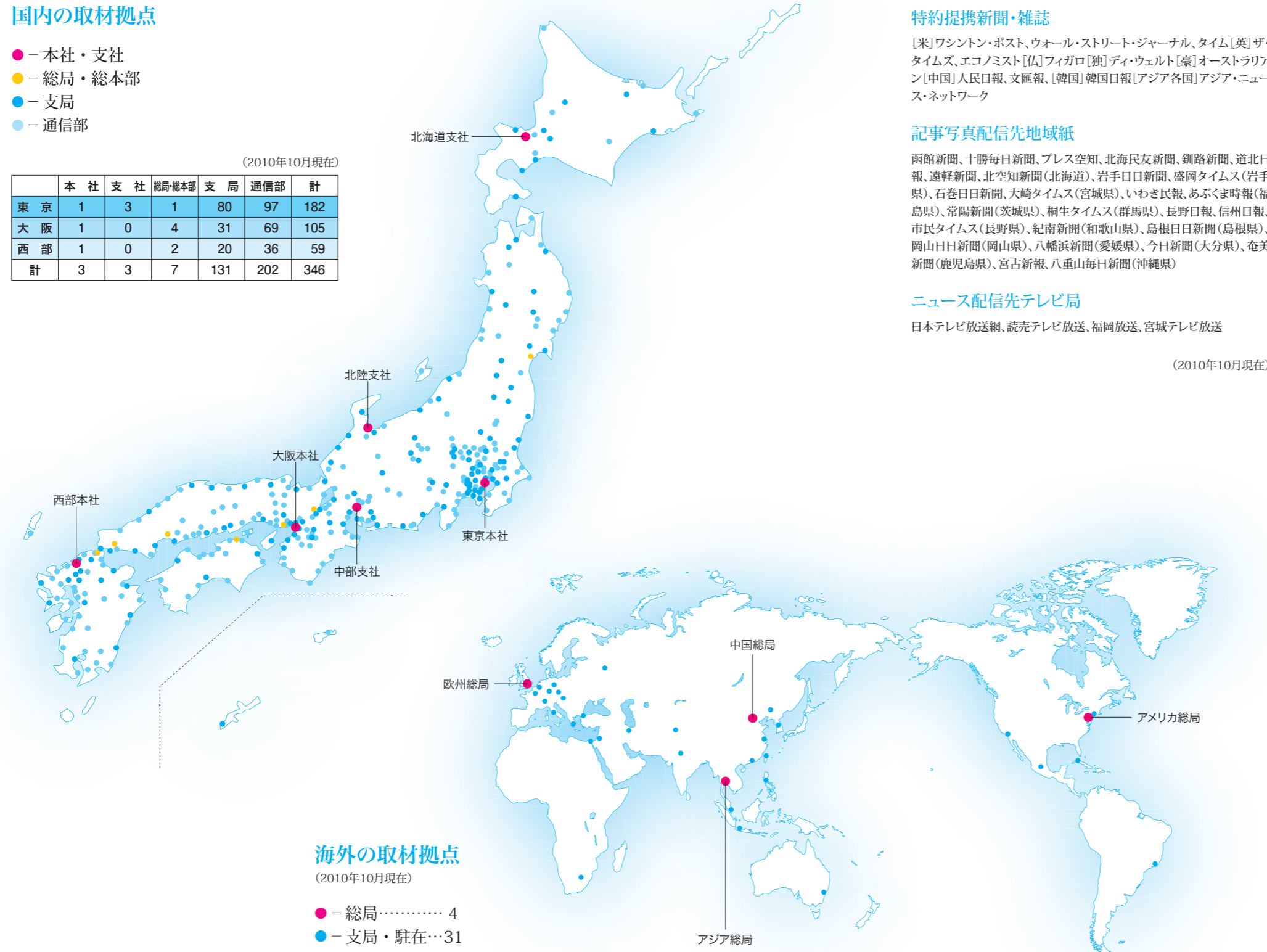
読売新聞の取材網は全国各地に広がり、世界の主要都市にも取材拠点を置いています。日本と世界に張りめぐらされた取材網を生かし、めまぐるしく動く政治や経済、事件、文化など、さまざまなニュースをいち早くお届けします。

国内の取材拠点

- - 本社・支社
- - 総局・総本部
- - 支局
- - 通信部

(2010年10月現在)

	本社	支社	総局・総本部	支局	通信部	計
東京	1	3	1	80	97	182
大阪	1	0	4	31	69	105
西部	1	0	2	20	36	59
計	3	3	7	131	202	346



海外の取材拠点

(2010年10月現在)

- - 総局…………… 4
- - 支局・駐在…31

特約提携新聞・雑誌

[米]ワシントン・ポスト、ウォール・ストリート・ジャーナル、タイム[英]ザ・タイムズ、エコノミスト[仏]フィガロ[独]ディ・ウェルト[豪]オーストラリアン[中国]人民日報、文匯報、[韓国]韓国日報[アジア各国]アジア・ニュース・ネットワーク

記事写真配信先地域紙

函館新聞、十勝毎日新聞、プレス空知、北海民友新聞、釧路新聞、道北日報、遠軽新聞、北空知新聞(北海道)、岩手日日新聞、盛岡タイムス(岩手県)、石巻日日新聞、大崎タイムス(宮城県)、いわき民報、あぶくま時報(福島県)、常陽新聞(茨城県)、桐生タイムス(群馬県)、長野日報、信州日報、市民タイムス(長野県)、紀南新聞(和歌山県)、島根日日新聞(島根県)、岡山日日新聞(岡山県)、八幡浜新聞(愛媛県)、今日新聞(大分県)、奄美新聞(鹿児島県)、宮古新報、八重山毎日新聞(沖縄県)

ニュース配信先テレビ局

日本テレビ放送網、読売テレビ放送、福岡放送、宮城テレビ放送

(2010年10月現在)

新聞記事ができるまで

取材・原稿作成

各部の記者が現場を取材して原稿を作り、デスクに送ります。デスクとは、原稿の取りまとめを行う各部の責任者です。政治・経済の動きから、事件・事故、文化、スポーツ、街の話題まで、記者の取材は昼夜を問わずに続きます。

編集会議

各部のデスクが集まり、その日の紙面づくりの方針を決めるのが編集会議です。会議といっても、大きなテーブルを囲んで立ったまま行われるため、「立ち会い」や「土俵入り」と呼ばれることもあります。



原稿チェック

各部のデスクが、記者から送られてきた原稿を確認します。事実関係の確認や文章表現の修正など、原稿チェックを繰り返し行ったあと、写真とともにレイアウトを担当する編成部に送ります。

レイアウト

編成部は、各部から送られてきた記事に見出しをつけ、コンピューターで記事や写真をレイアウトします。紙面レイアウトには、読売新聞グループの二十数年に及ぶコンピューターによる新聞制作のノウハウを結集した最新の組版端末が使われています。



校閲

文字や文章表現に間違いがないか、何度も紙面をチェックします。各取材部のデスクや編成部とやりとりしながら、確認作業を進めます。

紙面データの送信

最終確認が終わり、出来上がった紙面データは、専用回線を通じて、全国各地の印刷工場へ送られます。

新聞制作

読売新聞の印刷拠点は、全国28か所。

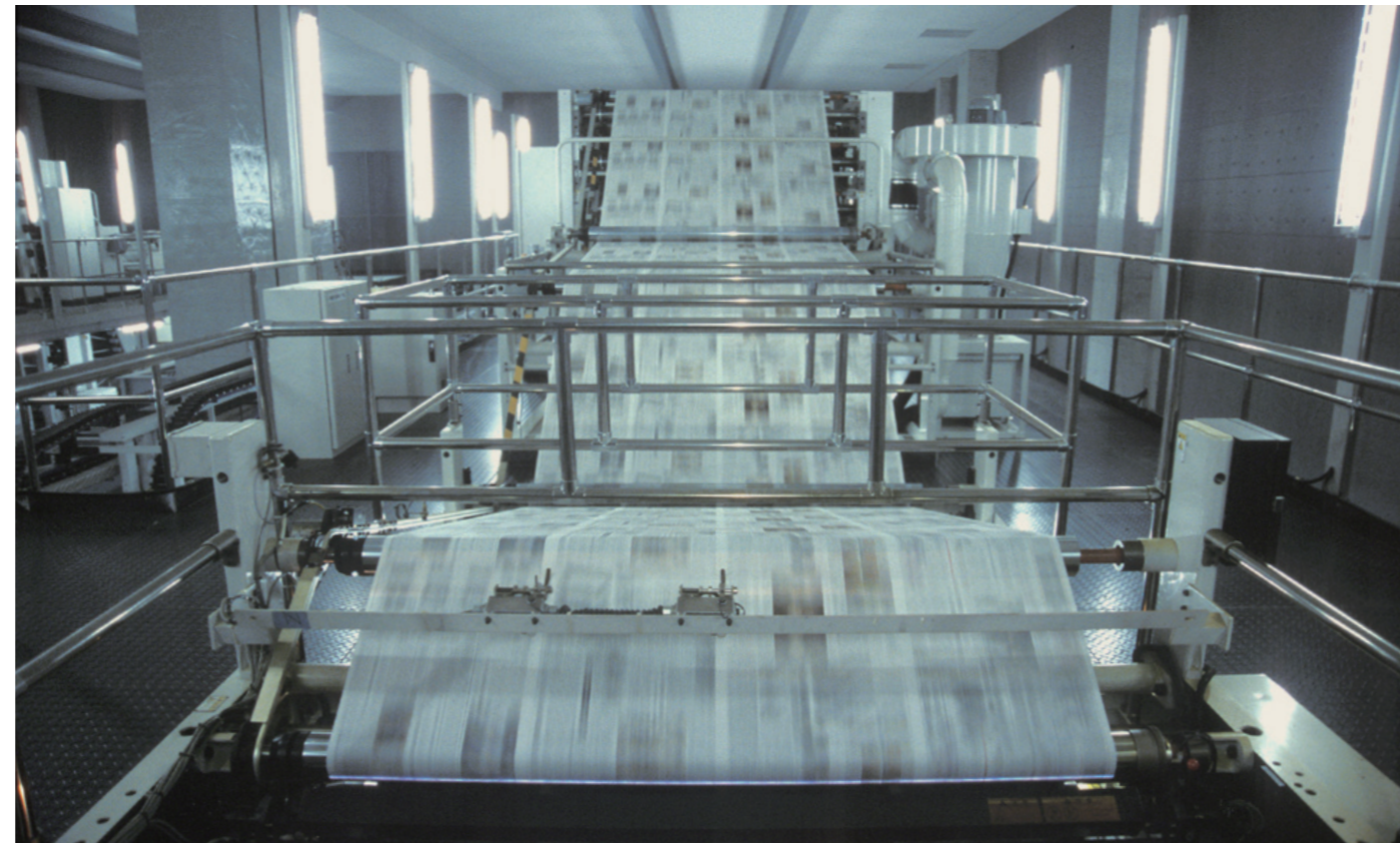
新聞紙面のデータから直接、印刷の原版を作るCTPや超高速輪転機など、新聞制作のための最新技術を導入したシステムがフル稼働しています。

「より早く、きれいに」を目指す最新技術

最新の記事を正確に、より早く、きれいな紙面としてお届けするために、読売新聞は、最新技術を導入し、様々な工夫と努力を重ねています。

世界で初めて新聞制作に実用化したダイレクト製版(CTP=コンピューター・トゥ・プレート)システムもそのひとつです。コンピューターでレイアウトした新聞紙面のデータを、直接、アルミニウム板上に焼きつけて、印刷の原版となる「刷版」を作る最新のシステムです。フィルムを使わないため、資材や廃棄物を減らすこともできる、環境にやさしい技術です。

CTPシステムによって出力された刷版は、最新鋭の輪転機にかけられ、1分間に1500部という高速で印刷されます。このようにして読売新聞は、16ページのカラー紙面を含む新聞を、全国28か所の工場で毎日1000万部以上も印刷しています。



最新鋭の輪転機。1分間に新聞1500部を印刷



メガ文字導入時に、基本文字の変遷を紹介した紙面

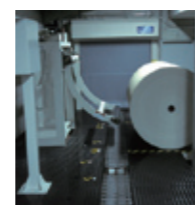
新聞づくりの最新機器と工程



① 組版端末
コンピューターに記憶させた記事や写真を画面に呼び出し、紙面を組みます。



② CTP
フィルムを使わず印刷の原版となるアルミニウム板上に紙面イメージを直接焼きつけ刷版(印刷の原版)を作ります。



③ 新聞用紙
新聞用紙は、自動的に輪転機まで運ばれて取り付けられます。



④ 超高速輪転機
刷版を取り付けて、新聞用紙に高速で印刷します。



⑤ 梱包・結束機
刷り上がった新聞を送り先ごとに分けて梱包します。



⑥ 発送
約2,450台の新聞輸送トラックで全国各地のYC(読売新聞販売店)へ運ばれます。

読売新聞の印刷拠点

(2011年4月時点)



新聞最大級の見やすい「メガ文字」

読売新聞は、目に優しく、より読みやすい紙面を目指して、従来と比べて面積を約23%拡大した「メガ文字」を2008年から導入しました。メガは100万倍の意味で、「これまでになく大きな文字」を表しています。高齢化社会の進展やパソコン作業の増加に対応した、新聞最大級のくっきりと見やすい文字です。

販売

読売新聞は、英国の「ギネスブック」が認定する世界最大の発行部数を誇ります。
1000万部を超える部数を支えるのが、読売新聞の強力な宅配網です。
全国約7600店のYC（読売新聞販売店）、そして約9万人のスタッフが、
「最終ランナー」として読売新聞をみなさんのもとに届けます。

発行部数は世界最大1000万部

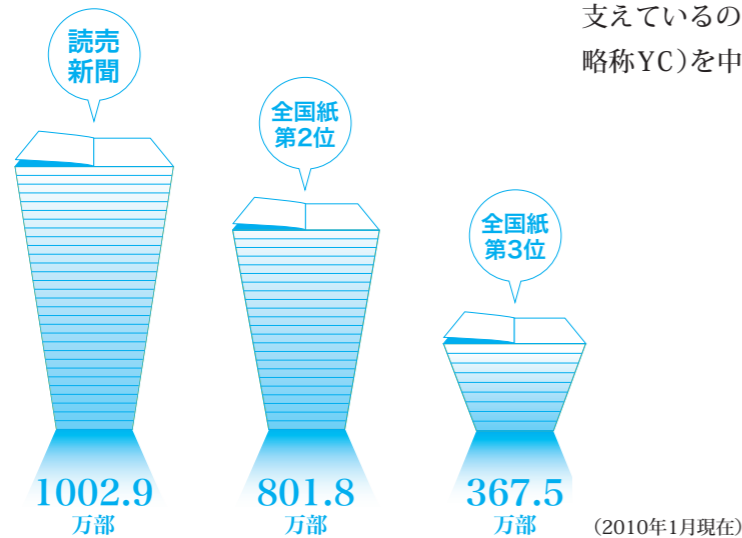
読売新聞は、1994年5月に発行部数公査機関である(株)日本ABC協会の報告で、10,019,985部を記録して以来、つねに1000万部を超える安定した発行部数を維持しています。2010年1月の朝刊部数は全国で10,029,265部で、全国紙第2位の新聞に約201万部、第3位紙に約635万部という大差をつけています。

読売新聞の全国の世帯普及率は約19%。これは日本の全家庭の5軒に1軒で読売新聞が購読されていることを意味しています。

読売新聞の創刊は1874年(明治7年)11月2日で、当初は隔日刊。縦27cm、横36cmの両面印刷というスタイルでした。1875年7月から1年間は1日平均で12,000部にも達しませんでした。

終戦直後の1945年11月の部数は約162万部でしたが、東京オリンピックが開かれた1964年には400万部台に乗せました。1977年2月には本紙発行部数720万部(ABC公査)で日本一を達成。以後、つねに日本一の部数を維持しています。

新聞を読者の家庭に届ける「最終ランナー」は全国約7,600の販売店で働く約9万人のスタッフです。1000万部を超える世界最大の発行部数を支えているのは、読売新聞販売店(読売センター。略称YC)を中心とした強力な宅配網なのです。



新聞用紙(巻き取り紙)の本数

約2,400

朝・夕刊を合計した1日の新聞印刷に使う本数です。巻き取り紙は1本の長さが13.7km、幅162.6cm、重さ950kg。全部つなぐと、その長さは約32,000km、地球の5分の4周以上の距離です。

新聞輸送トラックの台数

約2,450

全国29の印刷工場で印刷された新聞を販売店へ送り届ける主力はトラックです。1日あたりの新聞輸送に使用されるおおよその台数です。

1日の情報量

約20万

1日の新聞には、朝夕刊あわせて約20万字の記事が掲載されています。400字詰め原稿用紙で約500枚分相当ります。

1年間の記事数

約29万

2009年1年間にデータベース「ヨミダス文書館」に採録された記事の本数は、全部で29万2,298本です。

「J-READ」で見る読売新聞の到達率

ビデオリサーチが毎年実施する全国新聞総合調査が「J-READ」です。

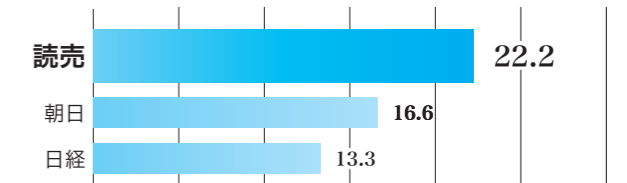
全国47都道府県で111紙を対象に、一斉に新聞の購読・閲覧状況を調べており、その新聞を購読している個人の割合を「到達率」で表しています。

(複数購読している場合もあるので、合計は100%になりません)

調査概要 2009年全国新聞総合調査(J-READ)

- 調査期間/2009年10月18日～24日
- 調査地域/全国47都道府県の全域
- 調査対象/満15歳～69歳の男女個人
- サンプル数/全国計33,800
- サンプリング調査方法/RDD(ランダム・デジット・ダイヤリング)により調査対象を抽出し、調査への協力を依頼
- 有効回答数/28,742
- 調査企画・設計・レターヘッド・実施/(株)ビデオリサーチ

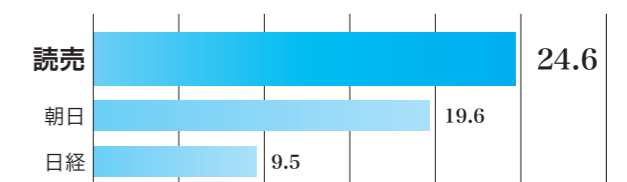
役員クラスへの到達率(%)



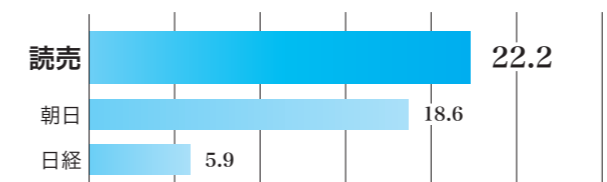
部長クラスへの到達率(%)



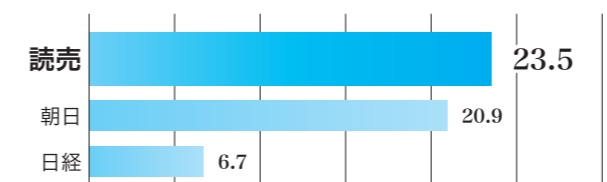
一部上場企業へ勤める人への到達率(%)



購読新聞到達率(%) 2009年調査、以下同



主婦への到達率(%)



読売新聞の販売店

(専売店は完全系列店。合売店は同一エリアに競合する販売店がなく、不特定多数の新聞を扱う店。複合店は本紙以外の一般日刊紙とも取引のある店) 2010年7月現在

全国	東京本社管内	大阪本社管内	西部本社管内	
専売	4,170	2,228	1,264	678
合売	839	665	72	102
複合	254	183	15	56
支店	2,341	1,325	814	202
合計	7,604	4,401	2,165	1,038

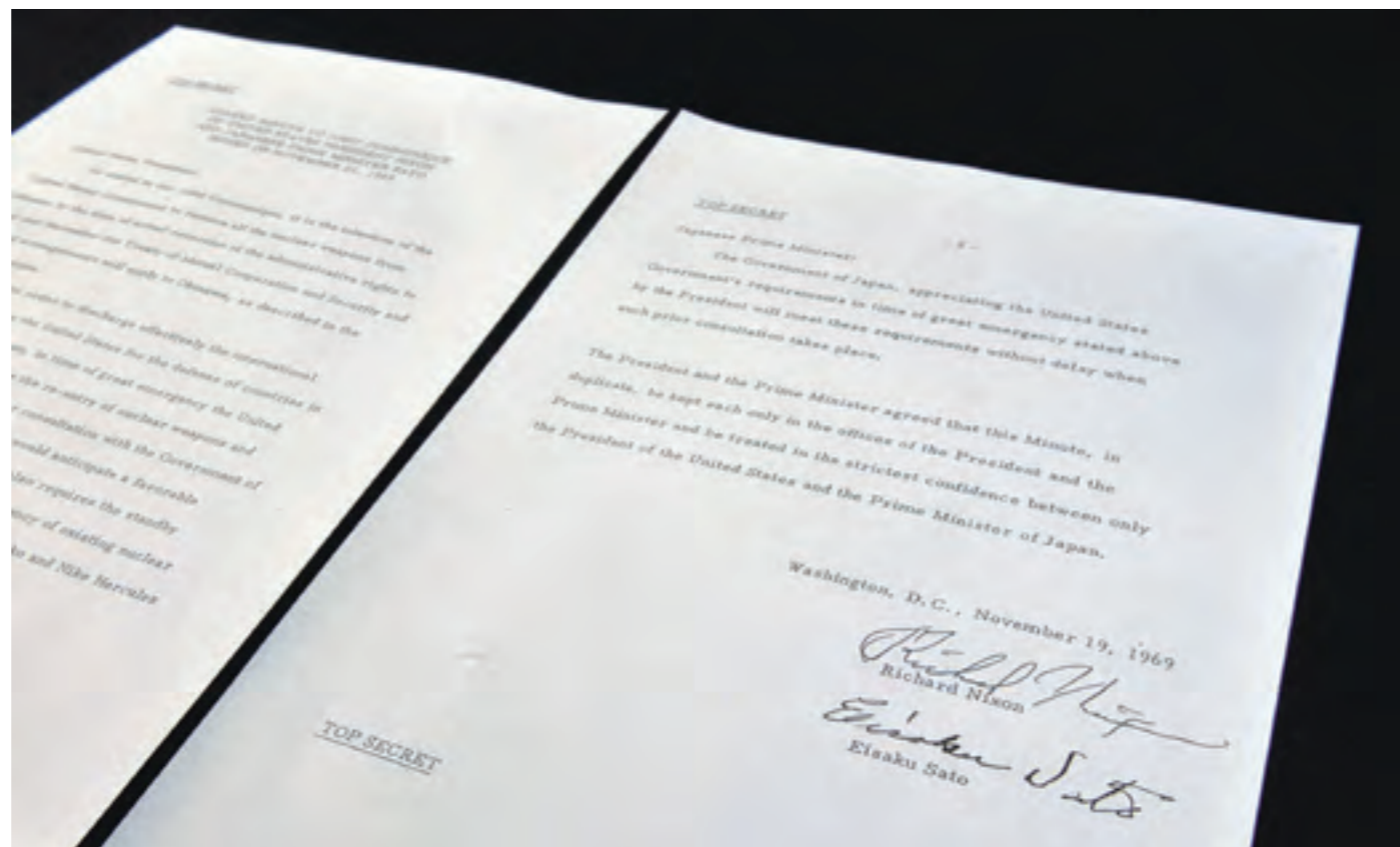
スクープ

埋もれた情報を掘り起こし、隠された事実をあぶり出すのがスクープです。
スクープは社会への大きな問題提起を行い、ときには歴史に新たなページを書き加えます。
世界を揺るがした「第五福竜丸がビキニ環礁で被ばく」の特報など、
数多くのスクープが読売新聞の紙面を飾ってきました。

新聞協会賞に輝いた「核密約文書」の発見

新聞の最大の使命は、ニュース報道です。読売新聞は、世の中の出来事を、素早く、正確に、分かりやすく伝えることに日々努力を続けています。ニュース報道の中でも、最も重視しているのが、スクープです。埋もれた情報を掘り起こし、隠された事実をあぶり出して、社会に大きな問題提起を行うスクープは、新聞にとっての「生命線」だからです。

日米間の核密約の動かぬ証拠をつかんだ大スクープが、2009年12月22日の夕刊1面トップ記事「核密約文書 佐藤元首相邸に」です。その年のもっとも優れた報道に贈られる新聞協会賞「編集部門」(2010年度)を受賞しました。



日米の首脳が直筆でサインした「合意議事録」

この記事は、1969年の沖縄返還交渉時、当時の佐藤栄作首相とニクソン米大統領との間で極秘裏に交わされた、有事の際の核持ち込みを密約した「合意議事録」の存在を、初めて確認したものです。元首相の遺族が保管していた文書の写しを入手し、全文を特報しました。

合意議事録には「トップ・シークレット」と記され、両首脳が直筆で署名しています。

この大スクープをものにしたのは、東京本社・吉田清久記者(当時、政治部次長)です。文書を保管していた元首相の次男、佐藤信二・元通産相との信頼関係を深め、5年近くかけて公表にこぎ着けました。



核持ち込みに関する密約文書を初めて確認した大スクープ



数々のスクープが読売新聞の名声を高めてきた

(1973年8月)、オウム事件報道の原点となった「山梨県上九一色村でサリン残留物検出」(1995年1月)などが挙げられます。

スクープは、事件や事故にかかわるものに限られません。妻の妹の卵子を使った体外受精が成功し、双子が生まれたことを報じた「妻以外の卵子で体外受精 国内初」(1998年6月)は、医療現場に大きな議論を巻き起こしました。「生殖医療の問題点を浮き彫りにし、日本人の生命・倫理観、宗教観に一石を投じた」と評価され、新聞協会賞を受賞しました。「医療の読売」の名声を高めたスクープです。

2009年3月には、農水省が労働組合の「ヤミ専従」を隠していたことをスクープし、同年9月には、歴史的な政権交代で発足した鳩山内閣の全閣僚17人の顔ぶれとポストを特報しました。2010年も、結婚詐欺容疑の女の周辺で知人男性が次々に不審死している事件、日本航空の法的整理や事業再生計画の決定などで、スクープを続けました。

日米間の核密約をめぐるのは、報道各社が米国で公文書などを発見して報じるたびに、外務省が一貫して「存在しない」と突っぱねる堂々めぐりが続いていました。読売新聞のスクープが、密約問題をめぐる不毛な論争に終止符を打ったのです。

サリン事件や生殖医療でのスクープも

読売新聞はこのほかにも、数多くのスクープを世に送り出しています。

戦後の代表的なスクープとしては、世界を揺るがした「第五福竜丸がビキニ環礁で被ばく」(1954年3月)、「金大中事件に韓国公的機関員が介在」

提言報道

混迷する時代に、
日本の進むべき針路を示します。



左) アテネ五輪男子マラソンで、トップを走っていたバンデルレイ・デリマ(ブラジル)が沿道から現れた男に妨害される=2004年8月撮影
中) ロッキード事件で、右手を上げて東京拘置所に入る田中角栄元首相=1976年7月撮影
右) キャンプの外にいる親せきや友人からメモをもらうコソボ難民の手=1999年4月撮影

カメラがとらえた決定的瞬間

「1枚の写真は何万語にも勝る」。この言葉を証明するように、読売新聞は歴史の決定的な瞬間をとらえてきました。

日本選手のメダルラッシュに沸いた2004年のアテネ五輪。大会最終日の男子マラソンの36キロ付近でハプニングが発生しました。先頭を走っていたバンデルレイ・デリマ選手(ブラジル)に向かって男がコースに乱入し、進路を妨害したのです。その瞬間をとらえた写真は、8月30日の朝刊一面を飾りました。

先頭の選手と併走するトラックの荷台に設置されたのは、世界でもわずか24人だけの取材席。この席にいた写真記者が、「いつ何が起きても対応できるように」との初心を忘れずに、瞬時にカメラを向けたことから、スクープが生まれました。

「世界の火薬庫」バルカン半島で起きたユーゴ・コソボ紛争。1999年3月の北大西洋条約機構(NATO)軍によるユーゴスラビア空爆から和平までの約3か月間、読売新聞の写真記者は凄惨な戦争の実情を多角的にとらえました。空爆の被害や国外に流出する難民の姿を伝えた一連の写真報道は、海外のメディアにも転載されるなどの高い評価を受け、新聞協会賞を受賞しました。

ロッキード事件で逮捕された田中角栄元首相が東京拘置所に入る瞬間をとらえたのは1976年7月。「今太閤」と呼ばれた元首相が、精いっぱい虚勢からか、「イヨッ」と右手を上げる得意のしぐさを、超望遠レンズでヘリコプターから撮影しました。

戦後の代表的なスクープ

(年月は初報の掲載時)

1954. 3	第五福竜丸がビキニ環礁で被ばく
12	吉田内閣きょう総辞職
67. 1	引き回される中国要人の写真特報など中国文化大革命の実態を報道
71. 6	22年前の弘前大教授夫人殺害で真犯人が名乗り
73. 8	金大中事件に韓国公的機関員が介在
88. 3	大阪府警察官の拾得金横領と主婦犯人扱い
6	ソ連のピアニスト、プーニン事実上亡命
90. 2	東北新幹線トンネル工事で凝固剤不正注入
91. 6	野村証券、法人損失160億円穴埋め
95. 1	山梨県上九一色村でサリン残留物検出
10	田沢法相と新進党側が国会質問で裏取引、田沢法相は辞任
98. 6	国内で初めて、妻以外の女性から卵子提供受け、体外受精
2001. 1	外務省幹部が機密費流用
03. 2	日銀総裁に福井俊彦氏
06. 3	自殺した上海総領事館員の総領事あて遺書入手
07. 3	年金の支給漏れが22万人、納付記録見逃す
08. 8	中国製ギョーザ中毒事件で、中国国内でも健康被害
09. 1	日本漢字能力検定協会が20億円の利益、文科省が調査へ
3	農水省が労働組合の「ヤミ専従」を隠す
9	鳩山内閣の入閣者全17人をポストも含めて特定
12	核密約文書 佐藤元首相邸に

言論機関の新境地を拓く

読売新聞は1994年11月発表の「読売憲法改正試案」以来、安全保障、行政改革、経済政策、教育、税制など国の将来像にかかわる多くのテーマについて、提言を行ってきました。提言報道は、2010年5月の「経済再生」まで、計25回(ほかに大阪本社が3回)に及びます。

他社に先駆けた提言報道によって、言論機関としての新たな境地を拓いたことはもちろん、時代を動かしてきたと自負しています。

2010年5月の緊急提言「経済再生」では、日本経済がデフレから脱却できず、経済活動が停滞している現状を憂慮し、鳩山政権(当時)に、マニフェストを大胆に見直し、成長重視の政策に舵を切るよう求めました。

新聞紙面で発表したその日から、多くの読者から好意的な意見をいただき、各政党や経済界からも賛同する意見が相次ぎました。

2008年10月には、「医療改革」提言を発表。医

師不足の解消のために若手医師を計画的に配置することや、医療・介護の人材確保のために病院勤務医の給与や介護報酬を引き上げることを提唱しました。

また同年4月の「年金改革」提言では、基礎年金の受給に必要な加入期間を25年から10年に短縮し、最低保障年金を創設して月5万円を保障することを訴えました。

提言報道の歩み

()は掲載時の見出し

1994.11	読売憲法改正試案(自衛力保持を明記)
95. 5	総合安全保障政策大綱(首相が一元的に指揮監督)
96. 5	内閣・行政機構改革大綱(各省1府9省に再編)
97. 5	21世紀への構想—国のシステムと自治の再構築をめざして(12州300市に再編)
98. 4	あすでは遅すぎる 経済危機 7つの提言(信頼回復へ大胆政策を)
5	政治・行政の緊急改革提言(政治・行政の責任確立を)
5	あすでは遅すぎる 税制改革への提言(困窮者の支援は社会保障で)
7	小渕新政権へ提言—100日間緊急行動計画の策定(強力内閣を作り、市場に立ち向かえ)
99. 5	領域警備強化のための緊急提言(「領域警備」自衛隊任務に)
5	このままでは危ない 経済再生へ5つの提言(自律回復へ政策決断を)
7	医療の改革を急げ 新世紀への5つの提言(がん死亡1割減へ総力を挙げよ)
11	社会保障制度改革へ5つの緊急提言(老後の不安ない明日を)
2000. 2	地方新税制についての緊急提言(外形課税は全国・全業種で)
5	憲法改正2000年試案(「公の秩序」重視を明示)
11	教育改革緊急提言(「知」と「心」ともに重視)
01. 3	デフレ阻止へ緊急提言(国民と市場の信頼取り戻せ)
4	日本再生 5つの提言(経済活性化へ総合戦略)
10	「世界の危機 日本の責任」緊急提言(対テロ 果敢な行動を)
02. 5	個人情報保護法案・人権擁護法案の修正試案提言(「報道の自由」と両立を)
9	目指すべき税制改革の提言(デフレ阻止 大胆減税を)
03. 3	有事下の経済危機 6つの提言(首相は政策大転換を)
04. 5	憲法改正2004年試案(家族は「社会の基礎」)
08. 4	年金改革(「最低保障年金」を創設)
10	医療改革(医師を全国に計画配置)
10. 5	経済再生(経済再生へ政策転換を)



2010年5月7日

社説・コラム

政治や経済、社会問題などについて、読売新聞の考えを明らかにするのが3面の「社説」です。文章力に秀でたベテラン記者が、内外の出来事から感じ取ったことを洗練された文章技法でつづるのが、1面の「コラム」です。「社説」の勇気と責任ある言論は読売新聞の「志」を、「コラム」の心温まる筆致は「良心」を象徴しています。

「30年後の批判に堪える」を合言葉にして

新聞には「報道」と「言論」の役割があります。「言論」を代表するのが「社説」です。政治や経済、社会問題などについて、読売新聞社は「社説」でその考えを明確にしています。

社説を担当するのは、政治、経済、社会、国際、科学、文化部など、編集局の各部出身の練達の記者で構成する論説委員会です。論説委員会で議論を重ね、社説が練り上げられていきます。

社説の基盤には、「勇気と責任ある言論」を掲げる「読売信条」があります。論説委員会はその「読売信条」を踏まえ、「30年後の批判に堪える」を合言葉に社説を作成しています。日々、そうした気構えで打ち出された読売新聞の社説は、ぶれない先見性が、内外から高く評価されています。

文章の達人がつむぐ「編集手帳」と「よみうり寸評」

1面に掲載されるコラムは、社説と並ぶ「新聞の顔」です。筆力に優れたベテラン記者が、内外のさまざまなニュースや話題から感じ取ったことを、洗練された文章技法でつづります。

読売新聞の朝刊コラム「編集手帳」の筆者は、6代目の竹内政明論説委員。2001年に、当時45歳という若さで担当になりました。夕刊の1面コラム「よみうり寸評」は、永井梓論説委員会特別顧問が1987年から執筆しています。

文章の達人がつむぐ「ことばの名品」。どちらのコラムもわずか三十数行の長さですが、研ぎ澄まされた観察力とユニークな視点に満ちています。



2010年1月1日



2010年8月24日



2010年9月6日

母への郷愁を呼び起こした「編集手帳」の一節

心温まる筆致で人気が高い「編集手帳」。その名文の一節を使った読売新聞のPRポスターが、大きな反響を呼んでいます。

「親が子を思う情はいつの世にも、『永遠の片思い』であるという。片思いに伝えられる年齢になったとき、親はいない。墓前にたたずめば人は誰もが、『ばか野郎』となじってもらいたい親不孝な息子であり、娘であろう」

竹内論説委員による「編集手帳」のこの一節と、母をイメージさせる女性の後ろ姿の写真で構成したPRポスター「母親編」=写真=には、「電車の中で見て、涙がこぼれてきました」「親の大切さと大きさを、改めて感じました」などのたくさんの声が寄せられました。

また、いじめ問題をテーマとして、「蠅たちの集まりでは、蝶も『キモイ』と陰口をたたかれるだろう。……君はひとり、大人になればいい」と呼びかけた「学校編」も、関係者や保護者の深い共感を得ています。



医療の読売

読売新聞は一般紙としてはじめて、医療問題を専門に扱う医療情報室(のちに医療情報部)を設け、医療と健康の報道に力を注いできました。長期連載企画「医療ルネサンス」や生殖医療に関するスクープなどにより、「医療の読売」の評価がすっかり定着しています。

長期連載企画「医療ルネサンス」

少子・高齢化が急速に進む日本において、誰もが健康や老後の生活について無関心ではられません。

読売新聞は、患者の視点に立ち、安心して受けられる医療の実現を目指し、1992年から「医療ルネサンス」をスタートさせました。当時、一般的な医療記事を連日紙面に載せるのは画期的な試みでした。連載開始当初から反響は大きく、今も読者からさまざまな声が寄せられています。

これまで特集したテーマは、がん、脳卒中、心臓病、肝臓病などの重大な疾患について、また高齢者の健康や病後の生活についてなど多岐にわたります。



医療ルネサンス



肺がんにて電極針を刺して行うラジオ波治療。「医療ルネサンス」ではさまざまな最新医療を紹介している(2010年8月23日掲載)

心の病が増え、「ストレス社会」とも呼ばれる現代。心の健康に対する読者の強い関心を受け、2008年から2009年には、「シリーズこころ」と題して心の病を特集。うつ病、統合失調症、依存症、境界性人格障害、PTSD(心的外傷後ストレス障害)をはじめ、さまざまな精神疾患を取り上げました。

統合失調症と誤診され、不適切な投薬で苦しんだケースを紹介した「これ、統合失調症？」の連載には、「同じような経験をした」との反響が相次ぎました。

連載開始以来、4900回を超える長期大型連載となった「医療ルネサンス」。患者だけでなく医療

関係者にも幅広く支持され、新聞協会賞、菊池寛賞などに輝いています。

連載への信頼感から多くの特報も生まれました。1998年には夫婦間以外での国内初の体外受精をスクープして新聞協会賞を受賞、「医療の読売」の名声を確認なものにしています。



健康プラス



病院の実力

また、連載からはイベントも生まれています。一流専門家を招いた「医療ルネサンス・フォーラム」を各地で開催し、地方紙にはまねのできない企画として好評を得ています。

「病院の実力」や「健康プラス」も好評

全国の主要病院へのアンケート調査をもとに、データに基づいた記事と情報を提供しているのが「病院の実力」です。その分野での手術件数や治療実績が一覧表になっており、病を持つ患者や家族にとっても受診の手がかりとして、高い評価を受けています。毎日の暮らしのなかで実践できる健康法を紹介する「健康プラス」も、読者の反響が大きい企画です。

医療・健康に関するこれらの記事は、読者からの記事コピーの要望に応えるために2008年4月に開始した「記事コピーサービス」でも、圧倒的な人気となっています。

教育の読売

日々変化する教育現場の「今」を伝える連載企画「教育ルネサンス」をはじめ、読売新聞は連日、教育関連の記事を掲載しています。読者とともに日々教育を考える。それが読売新聞のスタンスです。

学びの現場をレポートする「教育ルネサンス」

毎日、教育関連の記事を読めるのは、全国紙では読売新聞だけです。「教育の読売」を代表する看板企画が、2005年1月にスタートした「教育ルネサンス」です。

「可能な限り新しい動きをとらえる」「読者の参考になる情報を盛り込む」「読者の意見も取り込んだ双方向の紙面づくりを目指す」という目標を掲げ、幼児教育から、小中学校、高校、大学、そして生涯学習まで、幅広い学びの現場をレポートしています。父母や教育現場の関心は高く、連載回数は1300回を超えました。

「教師力」「食育」などの、これまで取り上げられたなかで反響が大きかったテーマからは、「教育ルネサンス・フォーラム」が誕生し、各地でイベントが行われるなどの展開を見せています。



教育ルネサンス



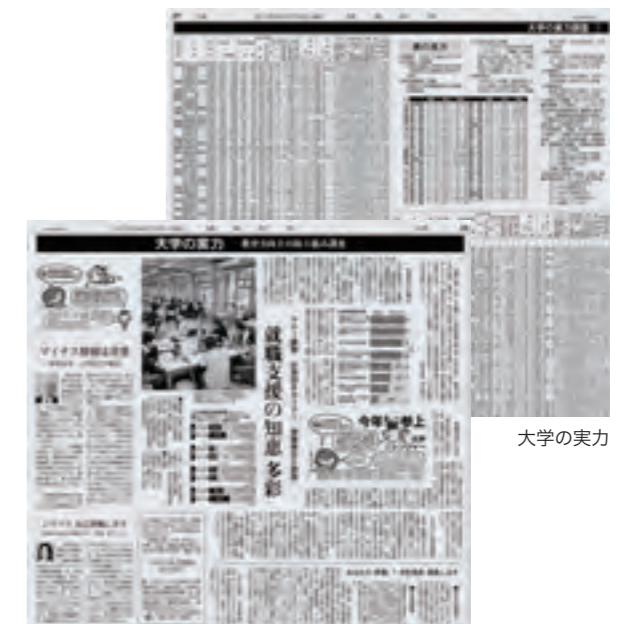
沖縄・八重瀬町立新城小学校で、社会人講師が「ナゾの種の正体を探そう！」をテーマに出前授業。もやしがいっぱい生えたバケツに児童が手を入れる。「教育ルネサンス」は教育現場のユニークな取り組みをレポートする(2010年8月26日掲載)

真の教育力を問う「大学の實力」

大学全入時代を迎え、各校の實力が問われています。偏差値やブランドに頼らず、自分にあった大学を選ぶ手助けにしてほしい。こんな狙いで2008年から始めたのが、調査「大学の實力 教育向上への取り組み」です。

毎年、約50項目に及ぶ設問を作り、全国の国公立大を対象にした調査を行っています。中心テーマは2008年が「組織的な教育力向上」、2009年が「学生支援」、2010年が「就職に強い大学とは」です。これまでに明らかにされなかった各大

このほかにも、ニュースによく登場する時事用語を人気キャラクターが対話式で解説する「アトムとウランの時事ワード百科」や、最新の科学の話題を大きなイラストで説明する「大図解」、注目のニュースや話題の本などを子ども向けにわかりやすく紹介した土曜夕刊の「週刊KODOMO新聞」(夕刊のない地域は一部朝刊に掲載)など、楽しく学べる企画がそろっています。



大学の實力

学の退学率を一覧表にして公表するなど、大きな反響を呼んでいます。

子どもの学ぶ力を育てる

読売新聞には、教育関連企画に加えて、子どもたちの学ぶ力を育てるコーナーもいっぱいあります。2009年3月から始まった「ポケモンといっしょにおぼえよう！」シリーズは、子どもたちに大人気です。

ポケモンと一緒に紹介したことわざや熟語の意味や成り立ちをわかりやすく説明する企画です。日替わりで違う面に載るので、宝探しのようポケモンを発見する楽しみもあります。



ポケモンといっしょにおぼえよう! 熟語大辞典

多彩な大型企画

ニュースや解説記事のほかにも、読売新聞にはさまざまな情報が満載です。
環境、古典芸能、就職、家計、ファッションなどをテーマに、
読売新聞ならではの切り口で展開する大型企画が、紙面に彩りを添えています。

環境問題を読者とともに考える

地球規模の環境から、毎日の暮らしに必要なエネルギー、水、食料などの資源まで、読売新聞は読者ととも環境問題を考えるため、2006年4月に「環境ルネサンス」、2008年9月に「ECOライフ」の大型企画を始めました。

「環境ルネサンス」の一環として2008年1～2月に連載した「水危機」シリーズでは、米国、ケニア、中国、日本の4家庭の1日に使う水量を調査し、バケツを並べた写真で表現。読者から「分かりやすい」「考えさせられた」と多くの反響が寄せられました。また、2010年に名古屋市で開かれた「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」に合わせ、人間と動物との共存の道を探る連載「ともに生きる」や特集「生物多様性は今」を掲載するなど、環境に関する国際会議や生ニュースと連動した、タイムリーな企画に取り組んでいます。

最新の環境関連情報が満載の「ECOライフ」は、企業などの取り組みを伝える「最前線」と、家庭でのアイデアを紹介する「わたしの工夫」の2つのメインコーナーが隔週で登場し、ビジュアルな紙



ECOライフ

モードUPDATE

面で反響を呼んでいます。

「最前線」では、太陽光発電と電気自動車を組み合わせ合わせた省エネ住宅やパンの切れ端から次世代エネルギーの水素を作る技術など、「わたしの工夫」ではペットボトルを利用した太陽熱温水器など、身近でユニークな事例を数多く紹介しています。

日本の文化を守る「伝統芸」

2001年に能楽、2003年に文楽、2005年に歌舞伎。日本の伝統芸が、国連教育・科学・文化機関(ユネスコ)の世界無形文化遺産に選定されました。グローバル化やインターネットの普及により



伝統芸

家たちの芸の見せ場となっています。

就活や家計を応援、ファッション企画も

学生の就職活動を応援する企画が「就活ON!」です。就職活動の成功例を若手社員が語る「GJ(グッジョブ)」、企業の採用担当者が欲しい人材や面接で何を見るかを本音で話す「人事の眼」、本社人事部のデスクが自己PRの秘策などを伝授する「原田デスクの必勝講座」など、就職活動に役立つ実践的なノウハウを紹介しています。

「家計の知恵」は、家計のやりくりに役立つ身近な消費情報や賢いマネー運用術に加え、新製品情報などのホットなニュースを伝えています。景気の低迷で一段と厳しさを増す家計を応援します。

ファッションをテーマにした大型企画には、夕刊の「モードUPDATE」があります。人気ブランドやデザイナーの動向など、先端のファッションの話題を、華やかなカラー写真とともに紹介しています。

世界が均質化していく今、先人から受け継いだ大切な価値や心を守りぬく。読売新聞が2005年3月から連載企画「伝統芸」を開始したのは、このような理由からです。

これまでに、歌舞伎、文楽、能狂言、邦楽、舞踊、落語、神楽、茶道、華道など幅広い分野で、様々な取り組みにスポットを当ててきました。「伝統芸」に焦点を絞ったページを設け、人間国宝から若手まで、芸の継承者を紹介しています。日本文化の粋をお届けしています。

紙面だけでなく、事業を通して伝統芸の継承を支援しています。

「読売GINZA落語会」は、2001年から開催。嘸



就活ON!

伝統と人気の連載

かつて読売新聞は連載小説が高い人気を誇り、「文芸新聞」と呼ばれました。

近年も、時代を代表する小説家が筆を執り、その伝統は健在です。

そのほかにも、読者の悩みに答える「人生相談」、社会面の4コマ漫画「コボちゃん」など、

読売新聞には読みごたえのある連載企画がいっぱいです。

文芸新聞の伝統を引き継ぐ「連載小説」

連載小説が読売新聞に登場したのは1886年。始まりはフランス小説の翻訳物でした。まもなく坪内逍遙を文学主筆に招いて連載小説の充実に努め、1897年には尾崎紅葉の「金色夜叉」の連載が始まり、人気を博しました。

明治・大正期の読売新聞は、「文芸新聞」ともいわれるほど文学史で高く評価され、尾崎紅葉のほか、正宗白鳥、島崎藤村、徳田秋声らが筆をとり、志賀直哉の短編「清兵衛と瓢箪」などの名作が掲載されました。



尾崎紅葉の「金色夜叉」



人生案内



小説「あかりの湖畔」



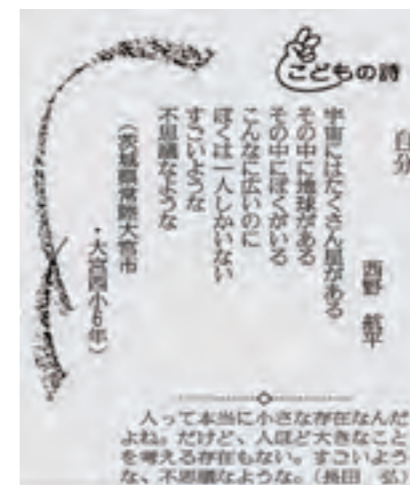
小説「草原の風」

以来、吉川英治、三島由紀夫、井上靖、松本清張ら、時代を代表する作家の名作が紙面を飾りました。2003年からは土曜朝刊の1ページを使って小説を掲載するなど、新機軸も打ち出しました。

近年も大江健三郎、井上ひさし、小川洋子、角田光代、宮部みゆき、桐野夏生、伊坂幸太郎らの注目の人気作家が連載するなど、「文芸新聞」の伝統は平成の時代にもたしかに息づいています。

読者に親しまれる「人生案内」

「人生案内」の前身となる「身の上相談」が始まっ



こどもの詩



コボちゃん

たのは1914年。その後、「悩める女性へ」などとタイトルを変え、1949年から「人生案内」になりました。現在の回答者は弁護士、作家、医師など12人。

人生経験豊かな個性派の回答者によるアドバイスは深い含蓄に富んでおり、愛読者の多いコーナーです。

そのほか、17文字で世相を切り取る「よみうり川柳」、子どもたちの詩に詩人の長田弘さんが心温まるメッセージを寄せる「こどもの詩」も、長い間、多くの読者に親しまれています。

人気の「コボちゃん」は連載1万回に

1982年4月にスタートした社会面の4コママンガ「コボちゃん」は、幼稚園児コボちゃんを中心に田畑家のメンバーの日常をほのぼのとした味わいで描き、読者の心を和ませています。

連載1万回を迎えた2010年6月には、5歳の主人公コボちゃんに妹が誕生し、公募で「ミホちゃん」と名づけられました。ミホちゃんの登場で、コボちゃん一家はますますにぎやかになりました。

広告

新製品やサービス提供のお知らせなど、
新聞広告は読者の日常生活に
なくてはならない情報源です。

新聞紙面には、ニュースや連載などの記事に加え、広告が掲載されています。

企業や官公庁などの団体が、商品・サービス、企業メッセージ、人材募集などについて伝える新聞広告は、読者にとって、記事と並ぶ重要な情報源です。

読売新聞の広告は、年間で約14万段、ページに換算すると9300ページにのびます(東京本社版・朝夕刊含む)。

新聞の特長である信頼性、速報性、適時性、詳細性、保存性が広告主から評価され、紙面は連日、様々な広告でにぎわっています。

広告局の営業担当者は、これらの広告主を訪問し、読売新聞に対する意見や要望を聞き、ニーズに合った企画広告を提案していくことで、新聞広告の新しい可能性を切り拓いています。

新聞社にとって、広告収入は、販売収入と並ぶ大きな収益の柱であり、多くの広告主に広告媒体として活用されることで、経営の安定と独立が成り立っています。



旭化成 食品包装ラップで日本の食の問題に貢献している企業姿勢を告知



ロッテ 母の日をイメージしたカーネーションの赤を基調にした、視覚に訴えるデザイン



H&M ファッションブランドの渋谷店の開店告知を前日と当日に連日掲載



日本製紙クレシア 紙面企画で、企業や商品・サービスの歴史を紹介



内閣府 中小企業を応援する制度について訴求し、問い合わせ窓口の一覧を明記

英字紙・書籍

英字日刊紙「デイリー・ヨミウリ」や、
国内外のニュースやデータをまとめた
「読売年鑑」など、読売新聞はさまざまな
媒体で貴重な情報を発信しています。

英語学習に役立つ「デイリー・ヨミウリ」

デイリー・ヨミウリは、主要新聞社が単独で発行する、国内唯一の英字日刊紙。宅配部数で長年トップを維持してきましたが、駅などでの即売を含めた発行部数全体でも2010年4月にナンバー1になりました。

世界各地のニュースを日本の読者に、英語でダイレクトに伝えるとともに、国内ニュースもデイリー・ヨミウリの独自取材と読売新聞本紙の翻訳を中心にボリュームたっぷりの紙面をお届けしています。

海外の主要紙との特約・提携も重視しており、ワシントン・ポスト(米)、ロサンゼルス・タイムズ(米)などがデイリー・ヨミウリ向けに制作した紙面6～7ページをそれぞれ週1回掲載(2010年10月現在)、「日本にいながらにして世界の高級紙の紙面を読むことができる」と好評です。

日本人の英語学習のための企画にも力を入れています。「Let's Try 算数の英語」「そこが知りたい! TOEIC® テスト」など、英語力アップに役立つ企画が満載の「The Language Connection」を毎日掲載しています。

「読売年鑑」や「報道写真集」も

「読売年鑑」や「報道写真集」も

2002年7月に現在の読売新聞グループが発足して以来、出版物の多くが中央公論新社に移りました。

読売新聞社の名前で発行するものとしては、日々発生するニュースや統計データを1年ごとにまとめた「読売年鑑」、報道写真でその年のニュースや世相を振り返る「読売報道写真集」など、新聞社ならではの出版物です。そのほか、「箱根駅伝ガイド」「病院の実力」「就職に強い大学」などのムックも刊行しています。



デイリー・ヨミウリ



1年間のニュースやデータをまとめた読売年鑑

電子メディア

いまや日常生活に欠かせない存在となっているインターネットや携帯電話などの電子メディア。読売新聞は、インターネットの総合ニュースサイトに加え、携帯サービスやCS番組も手がけています

ヨミウリ・オンライン(YOL)

読売新聞の電子メディアの中核は、インターネットの総合ニュースサイト「ヨミウリ・オンライン」(YOL)です。動画やブログも駆使しながら、国内外のニュースを24時間リアルタイムで速報。「使い勝手が良いサイト」としても高い評価を得ており、月間ページビューは4億2000万超、ユニークユーザー*の数では新聞社系でトップです。

なかでも女性をターゲットにした「大手小町」の投稿サイト「発言小町」は、すべての投稿内容をチェックし、他人への中傷を防ぐなどして新聞社ならではの信頼性を確保、女性ユーザーの熱烈な支持を集めています。

※ユニークユーザー：一定期間にサイトへ訪れた利用者の総数。同一人物が何回訪れてもユニークユーザー数は一人と数える。ページビューよりサイトの人気度を正確に反映できる。

yorimo

読者と新聞のつながりをより親密なものにしたい。そんな思いを込めて展開しているのが無料会員制サービス「yorimo (ヨリモ)」です。

ネットの利便性を生かし、クイズ、読み物、チケットの先行販売など多彩な読者サービスをお届けしています。2010年6月には、携帯向け有料サイト「ヨリモバ」もスタートしました。

yomiDr.

2009年10月には、「医療の読売」として定評のある記事やデータを病気ごとに再編集し、最新ニュースやコラム・ブログも充実した医療・介護・健康情報の有料会員制サイト「yomiDr. (ヨミドクター)」を開設、反響を呼んでいます。



ヨミウリ・オンライン



yorimo

携帯サービスやCS番組も

携帯電話でも様々な情報サービスを展開しています。ニュース速報に特化した「NEWS 読売・報知」や「読売メールアラート」、ジャイアンツの試合情報からニュース速報まで幅広い情報を提供する「モバイルGIANTS」などです。

語彙や漢字などのうんちくをクイズ形式で出題するyorimoの人気コーナー「校閲道場」は、



ヨミウリ・オンラインの編集現場。多くのスタッフが随時到来するニュースに対応し、画面を更新していく



yomiDr.

iPhone (アイフォーン)でも体験できます。

さらに、CS放送「日テレG+ (ジータス)」に日本テレビとともに取り組み、新聞社ならではの質の高いニュース解説や教養番組を制作しています。

創刊時から現在までの新聞記事をデータベース化し、ネット上で検索できるサービスが「ヨミダス歴史館」です。「情報の宝庫」として、ビジネスマンや教育関係者、学生など多くの方々の様々なニーズにこたえています。



iPhoneでも体験できる「校閲道場」

3紙共同ニュースサイト「あらたにす」

2008年1月、日本経済新聞、朝日新聞、読売新聞という日本を代表する新聞3紙による共同ニュースサイト「あらたにす」が開設されました。

サイト名は「新しくする」という意味を込めて古い言い回しにしたもので、「新(new)+s=NEWS」の意味も込められています。

このサイトの目玉が3紙の1面、社会面の記事や社説の読み比べができる「くらべる新聞」。正確かつ迅速な報道と言論を提供するという新聞の役割をネット上でも果たしています。

この共同ニュースサイトの誕生は、2007年10月に3社で合意された提携内容に基づくものです。提携は、新聞の販売と印刷の分野でも行われています。

販売部数減少のために店舗の維持が困難になってしまった一部地域では、3紙の販売店が配達を委託し合いながら、効率的な新聞配達を進めています。大災害により新聞発行が難しくなった場合は、3紙が全国7地区で協力して印刷し合う体制が整えられています。



芸術・文化事業

読売新聞は、報道・言論活動に加え、さまざまな事業を通して、文化の振興に力を入れています。
美術、音楽はもちろん、親子で楽しめる科学展など、その活動は多岐にわたります。

美術

戦後まもない1951年に「マティス展」を開いて大反響を呼んで以来、数々の大型企画展を主催し、「美術の読売」という評価を確立しました。

ルノワールやピカソなど門外不出の傑作の日本公開を実現した「バーンズ・コレクション展」(1994年)、スペインが誇る名画を紹介した「プラド美術館展」(2002年)、印象派の巨匠の作品を一堂に集めた「大回顧展 モネ」(07年)、「ルノワール展」(10年)といった西洋美術のほか、日本の仏教彫刻を代表する日光・月光菩薩の2体を初めて寺外で公開した「国宝 薬師寺展」(08年)など、「美術の読売」にふさわしい注目の展覧会を手がけています。

シルクロードの東端といわれる奈良・東大寺正倉院。毎年秋、数多くの宝物の一部を奈良国立博物館で一般公開するのが「正倉院展」です。読売新聞はこの正倉院展に特別協力し、紙面企画と関連事業を通じて、魅力を紹介しています。

このほか、全国の主要公立美術館129館が加盟する「美術館連絡協議会」の事務局も運営しています。公立美術館が連携し、単館では開催が難しい



ルノワール展



「国宝 薬師寺展」で光背を外して公開された日光、月光菩薩立像

展覧会、美術教育などの活動を全国規模で展開しています。

「読売書法展」は古典と伝統を軸にすえた本格派の書道展で、日本を代表する書家が参加します。応募総数は3万点と、国内最大規模を誇ります。

音楽

世界の新聞社の中で、オーケストラを持つのは読売新聞だけです。1962年の創立以来、世界的な巨匠を指揮台に招き、数多くの名演を残してきました。現在、サントリーホールでの定期演奏会を軸に、幅広いプログラムで聴衆を魅了しています。

全国の音楽大学・短大の首席級卒業生が競演する「新人演奏会」、オペラ歌手をめざすコンクール「日伊声楽コンコルソ」はいずれも新人登竜門として定着しています。

ゴールデンウイーク恒例の音楽の祭典「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」にも特別協力しています。良質な音楽を低価格で楽しめる音楽祭で、クラシック愛好家のすそ野を広げています。

日本のポップカルチャーに多大な影響を与えた1966年のビートルズ来日公演は、読売新聞が主催したものです。ジャズ界の巨人ソニー・ロリンズのコンサートシリーズを継続して手がけるなど、幅広いジャンルの音楽事業を行っています。



大恐竜展

多彩な展覧会

1億5000万年前、現在の南米、アフリカ、インド、オーストラリア、南極は、ひとつにつながった巨大な大陸でした。その「ゴンドワナ大陸」に生息していた最大級の肉食恐竜「マブサウルス」の復元骨格を世界で初めて公開し、多くの観客を集めたのが「大恐竜展～知られざる南半球の支配者～」(2009年)です。世界的にも珍しい恐竜の赤ちゃんの皮膚痕が残る卵の化石の展示も、注目を集めました。

読売新聞はこのほかにも、ロシアの永久凍土から奇跡的に無傷の状態で見つかった凍結マンモスを世界初公開した「リユーバ展」(08年)や、「進化論」を唱えた英国の自然史学者、チャールズ・ダーウィンの業績を紹介した「ダーウィン展」(08年)など、話題の科学展を多数主催しています。

毎年2月に東京ドームで開催される世界最大級の蘭の祭典「世界らん展日本大賞」は、2010年に20回を迎えました。読売新聞は、第1回からこの展覧会を主催する実行委員会に加わり、蘭を通じた国際交流と花の文化の広まりに、一役買っています。

スポーツ事業

読売新聞は、読売巨人軍の試合の主催や「箱根駅伝」の共催をはじめ、幅広いスポーツ事業を展開しています。さらに、少年サッカーや小学生バレーボールなど、スポーツを通じた青少年の育成にも取り組んできました。



読売巨人軍

野球

読売巨人軍の前身となる「大日本東京野球倶楽部」の発足は1931年。ベーブルース、ルー・ゲーリックを含む米メジャーリーグの選抜チームを招いて日米野球を実現し、それをきっかけに、巨人軍が誕生しました。以来、日本のプロ野球の生みの親として、巨人戦を主体としたプロ野球の試合を主催しています。

2000年には、日本で初めて米メジャーリーグの開幕戦を行いました。06、09年には、野球の世界一決定戦・ワールドベースボールクラシック(WBC)の東京ラウンドを主催し、野球の国際化にも取り組んできました。

アマチュア野球の支援も行っており、「全日本大学野球選手権大会」のほか、全国規模の様々な少年野球大会も開催し、底辺拡大にも力を入れています。



東京箱根間往復大学駅伝競走

箱根駅伝、五輪パートナーも

正月の風物詩となった箱根駅伝の原型は、1917年4月、日本初の駅伝として読売新聞が主催し、京都―東京間で開かれた「東海道駅伝徒歩競走」です。当時の社会部長土岐善麿が東海道五十三次取材した際、「宿場交代のマラソンを」と発案しました。「駅伝」の名もこの大会で生まれています。

その3年後に第1回大会が行われた「箱根駅伝」は、今では新年の季語として歳時記に収められ、「ekiden」は国際語にもなっています。2005年からは秋の仙台を舞台に行われる女子大学生の駅伝

「全日本大学女子駅伝(杜の都駅伝)」も主催しています。

このほかにも、全国大学ラグビーフットボール選手権、日米大学対抗ゴルフ選手権など、さまざまな大学スポーツを応援しています。少年サッカー、高校サッカー、全日本小学生バレーボール、ジュニア五輪水泳など、青少年スポーツの普及活動にも力を注いでいます。

また、読売新聞は2002年から、日本オリンピック委員会(JOC)のオフィシャル新聞パートナーを務めています。オリンピックの熱戦を大きく紙面で紹介しているほか、関連イベントの開催を通じ、日本代表選手の活躍を応援しています。



全日本少年サッカー大会



全国大学ラグビー選手権



全日本大学野球選手権大会

フォーラム

各界の第一人者を招き、
日本と世界の未来を考えます。



2009年4月、利根川進、益川敏英氏らを招いて行われたノーベル賞受賞者を囲むフォーラム

読売新聞は1972年から、日本の代表的な企業やシンクタンク、有識者、在日外交官らを会員とする「読売国際経済懇話会(YIES)」を組織しており、内外のキーパーソンを招いた講演会を行っています。YIESのもう一つの主要な活動は、公開シンポジウム「読売国際会議」です。内外の有識者の議論を通じて日本の経済や政治、外交のあり方

を探ります。

ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「次世代へのメッセージ」には、日本をはじめ海外からも著名な受賞者が参加し、自由闊達な議論が展開されます。次世代を担う若者に、人類の叡智と触れ合う機会を提供してきました。

若者の活字離れは、次世代の思考力や創造力の低下につながりかねないことから、読売新聞は出版関係業界と協力して、「活字文化推進会議」を発足させ、本や新聞などの活字文化を守り育てるための「21世紀活字文化プロジェクト」を展開しています。全国各地でのフォーラム、トークショーなど多彩な事業を行っています。

このほかにも、「教育ルネサンスフォーラム」、「医療ルネサンスフォーラム」など連載記事から生まれたものや、食糧、子育て、防災、伝統芸など身近な話題をテーマにしたシンポジウムを多数開催しています。



「世界はどうか 日本はどうか」をテーマにした読売国際会議2009

顕彰事業

文学から、国際貢献、医療、教育まで、
様々な分野の功労者に光を当てています。



読売文学賞

数ある文学賞のなかでも、「玄人の文学賞」としての世評が高いのが「読売文学賞」です。

戦後間もない1949年、読売新聞が文芸復興のため創設し、大岡昇平「野火」、三島由紀夫「金閣寺」、安部公房「砂の女」など、数多くの名作を顕彰してきました。

小説だけでなく、戯曲・シナリオ、評論・伝記、詩歌俳句、研究・翻訳、随筆・紀行の6部門からなる総合文学賞として、日本の活字文化の振興に一翼を担っています。

「読売・吉野作造賞」は、論壇の一角に地歩を築いてきた「読売論壇賞」と、中央公論新社の「吉野作造賞」を一本化して、2000年に創設されました。政治、経済、歴史、文化などの分野の優れた論文、評論を顕彰しています。

「読売演劇大賞」は、舞台芸術作品、出演者をはじめとする演劇人を、「読売あをによし賞」は、文化財の保存・修復で業績を上げた個人や団体を表

彰しています。

読売新聞はほかにも、様々な分野で活躍した人たちに光を当ててきました。

「読売国際協力賞」は、国際社会への貢献と協力の重要性を、身をもって示した個人、団体を顕彰するものです。「医療功労賞」は、へき地や離島などの困難な環境下で、長年にわたり献身してきた医療従事者を表彰しています。

青少年育成の分野では、教育の向上に尽力した教育関係者を表彰する「読売教育賞」、英語能力の向上と国際親善を目指す「高円宮杯全日本中学校英語弁論大会」、日本で最も伝統ある科学コンテスト「日本学生科学賞」、約3万点もの作品が寄せられる「全国小・中学校作文コンクール」などが挙げられます。

囲碁の「棋聖戦」と将棋の「竜王戦」は、読売新聞が主催している歴史あるタイトル戦で、これまで多くの名勝負が繰り広げられてきました。

読者ととともに

読売新聞は、読者の声を反映した紙面づくりに努めています。

さらに、教育現場での新聞活用の推進や記者派遣を行い、新聞社のノウハウを社会に還元しています。

読者センター

以前は編集、広告、販売の各部署で対応していた読者からの様々な意見や問い合わせの声に、一元的かつスピーディーに対応するため、読売新聞は他の全国紙に先駆けて2005年4月、本格的な「読者センター」を開設し、CS（顧客満足度）推進に努めています。

スタッフは、「親切、冷静、明朗」を心がけ、年中無休体制で電話やメールによる意見や問い合わせに対応。迅速かつ的確に、取材部などの関係部署にフィードバックしています。

届けられる意見や情報は連日約500件。読者の声は、実際に紙面作りに役立てられています。

「高額バイトは実は覚せい剤の運び屋」(2009年3月)、「泣かせるベストセラー『最後のパレード』に盗用疑惑」(09年4月)、「東京ディズニーランドでパレードの飾り落下」(08年1月)などのスクープは、読者センターに提供された情報が端緒となって紙面を飾ったものです。

2007年8月から、1面の日付の文字を大きく見やすく変更したのも、読者センターに寄せられた一人のお年寄りの声きっかけでした。

厳しい意見や多種多様な質問・相談が寄せられ



年中無休で読者からの問い合わせに対応する

る読者センター。報道・言論機関の前線基地として、読者に開かれた大きな「窓」として、重責を担っています。

NIEと記者派遣

文部科学省の定める新学習指導要領には、小中学校の国語、社会、総合学習や道徳などで新聞を活用した学習が明記されています。

読売新聞は、教育現場における新聞の活用(NIE=Newspaper In Education)の普及のために、2000年、NIE事務局を設置し、早くから教育界と連携してきました。



乙武洋匡さんが講演した第18回NIEセミナー

朝刊では月に1度、NIEの特集ページをカラーで掲載。写真やイラストを多用し、わかりやすい紙面でタイムリーな話題を取り上げています。掲載後は別刷りを印刷して、希望する学校に無料送付しています。先生向け勉強会や夏休み親子新聞教室を開催し、学校や家庭での楽しい新聞活用術を広めています。

さらに、読売新聞は現役の記者を学校に派遣し、取材の方法や記事の書き方などを伝えるなど、さまざまな機会を通じて、新聞社のノウハウを若い世代に伝えています。

「教育ルネサンス ことばの授業」は、読売新聞がNPO法人企業教育研究会(理事長・藤川大祐千

葉大教授)と共同で行っている「出前授業」です。記者が全国の小中学校、高校を訪問し、「インタビューをしよう」「記事を書こう」「見出しをつけよう」といったテーマで指導します。仕事の様子を収めた映像を流し、記者が手本を見せた後、子どもたちが実際に課題に取り組みます。年間約60校で授業を行っています。

また、出前授業「見る・撮る・伝える」では、写真部のベテランカメラマンが、子どもたちに写真を通じて表現することの楽しさを伝えています。

就職活動を行っている大学生や大学院生を対象としているのが「読売キャリアデザインセミナー」です。新聞の読み方など就職活動に役立つ様々なノウハウを指導し、多くの学生から好評を博しています。大学1、2年生向けには「キャリア教育セミナー」を各大学に出向いて開催し、新聞の読み方や記者の仕事について講義をしています。

東海大学で2008年から始まった「ジャーナリズム実践教育コース」は、ジャーナリストを目指す学生のために、読売新聞のベテラン記者が、情報取材の方法から記事の書き方まで具体的に教える講座です。政治、経済から国際問題、スポーツ、医療、報道写真まで幅広い分野の専門記者が、講師を務めます。



高校生にコラムの書き方を指導する本紙記者

社会貢献

防犯活動などで地域社会への貢献をはかるほか、障害者支援やボランティア活動を通して、人に優しくより豊かな社会づくりを目指しています。

YCによる防犯活動

「地域への密着と社会貢献」を目指す読売新聞販売店（読売センター。略称YC）は、地域防犯活動に積極的に取り組んでいます。

全国約7700店のYCが沖縄県を除く46都道府県に「読売防犯協力会」を発足させ、配達・集金中の110番通報協力、子どもたちを犯罪から守るための地域活動「こども110番の家」への全店登録推進、高齢者の見守り、チラシやミニコミ紙による防犯情報の発信などを展開しています。

警察、自治体、地域住民の方々からも高い評価を受けており、2004年7月に全国組織化しました。



読売新聞防犯パトロール隊の発足式を終えてパトロールに出かけるYCスタッフ

ヨミウリエコスタイル

読売新聞は、地球環境保護を推進するために、2009年から「ヨミウリエコスタイル」のタイトルのもと、全国のYCを活動の主体とするエコ運動を展開しています。

ペットボトルキャップやインクリボンの回収、新聞紙を使った「エコバッグ」の作り方講習会の開

催、地域の清掃活動などが各地のYCで行われています。

YCによる新聞古紙の回収も積極的に行ってきました。1982年にYCが中心となって「読売リサイクルネットワーク」を組織し、古紙回収は、毎月2万トンを超えるまでになりました（東京本社管内）。今後も読者サービスや環境保護のために推進していきたいと考えています。

社会福祉法人 読売光と愛の事業団

読売グループの社会福祉法人「読売光と愛の事業団」は視覚障害者、重症心身障害者のサポート



読売光と愛の事業団に中越沖地震の被災者救援のための義援金を渡す巨人軍・原監督(2007年7月)



「歌の会」で元気いっぱい声を出す施設利用者たち

保健施設「よみうりランドケアセンター」は2003年秋、緑豊かな多摩地区に開設されました。150の療養室すべてが個室という時代を先取りした施設です。

「良質な環境、良質なケア」を合言葉に、医師、看護師、介護福祉士ら専門スタッフが、充実した介護やリハビリテーションを提供し、入所・通所の方々の自立や家庭復帰などを積極的に支援しています。夏祭りなどの四季折々の行事も利用者に喜ばれています。

訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所も併設しており、地域社会に貢献しています。

公益財団法人 正力厚生会

正力厚生会は、がん患者助成事業を中心に活動、2009年12月には内閣府から公益法人の認定を受けました。読売新聞からの寄付金などをもとに、がん患者会や医療機関への助成、全国のがん拠点病院での読売日本交響楽団のチャリティコンサートなどを実施しています。

を中心に、半世紀にわたって、ハンディキャップを抱えている人たちの支援を続けています。2001年には社会福祉法人に組織変更し、老人福祉分野などにも事業を広げています。

視力を取り戻す角膜移植手術の橋渡しを行う「読売アイバンク」、福祉作業所で働く人たちの自立を支援する事業「生き生きチャレンジ」の運営、災害義援金の募集・寄贈など、地域に密着したさまざまな福祉活動を推進しています。

医療法人財団 緑と愛の会

医療法人財団「緑と愛の会」が運営する介護老人

読売グループの活動

日本テレビ放送網

読売新聞の社長を務めた正力松太郎が、国内初の民間テレビとして1952年に創立したのが、日本テレビ放送網です。以来、在京キー局として、近畿圏の読売テレビ、中京圏の中京テレビなど各地のテレビ局との系列化を進め、全国ネットワークを完備しています。

日本テレビのネットワークには、NNN（日本ニュースネットワーク）、及びNNS（日本テレビネットワーク協議会）という2つの組織があります。NNNはニュースを相互にネットすることを目的とした組織で現在30社が加盟しています。NNSは主に日本テレビの番組をネットワーク各社に供給することを目的に結成され、現在29社が加盟しています。

多メディア化・デジタル化などのように放送を取



放送

り巻く環境は日々刻々と変化しています。日本テレビは、「BS日テレ」、「CS日本」、「第2日テレ」などでの情報提供で対応しています。

読売新聞と共同で運営しているCS放送チャンネル「日テレG+（ジータス）」は、巨人戦中継をはじめとするスポーツと、読売新聞提供のニュースを中心に番組が編成されています。

報知新聞社

読売新聞創刊より2年早い1872年、郵便事業の創始者である前島密によって創刊されたのが「報知新聞」です。1941年に読売新聞の傘下に、1942年に読売新聞と合併して「読売報知」となり、1946年に復刊。1949年にスポーツ新聞に転換してからこれまで、巨人軍の記事を中心にスポーツ・芸能関連の情報を読者にお届けしています。



スポーツ紙発行



マロニエゲート

2007年秋に銀座の新たなランドマークとして開業したマロニエゲートは、ファッション専門店、東急ハンズ、飲食店が入居し、感度の高い銀座のOLのニーズに応えています。



プランタン銀座

旧読売新聞本社跡地の銀座3丁目に1984年に開店して以来、客層を働く若い女性に特化した百貨店としてパリのモードを発信し続けています。



よみうりホール

有楽町駅に接している読売会館の7階にある多目的ホールで、コンサート・講演会・試写会などに幅広く利用されています。

流通・サービス



よみうりランド

都心から30分の多摩丘陵に1964年開園した「よみうりランド」は、家族そろって楽しめる郊外型遊園地です。



読売旅行

パッケージツアーの草分けとして、国内外の主権旅行に定評があり、YC（読売新聞販売店）との共同企画「読売ロマンの旅」などグループ力を生かした企画も充実しています。

旅行・レジャー



読売日本交響楽団

1962年、読売新聞、日本テレビ、読売テレビの共同出資で設立された、日本でトップクラスの実力を誇るオーケストラです。



よみうりカルチャー

「よみうりカルチャー（読売・日本テレビ文化センター）」は、約1万の講座で、教養・趣味・実技などの様々な生涯学習のニーズにこたえ続けます。



読売理工学院

科学技術の発展に寄与し、優れた技能者、技術者を養成する1969年創設の理工系専門学校です。

文化・教育

その他の主な関連会社・法人

東京本社

福島民友新聞、読売インターナショナル社、読売ニュース社、読売ネーション・インフォメーション・サービス社、読売香港有限公司、東京メディア制作、プレス・ワークス、読売情報開発、読売インフォメーションサービス、読売ハートサービス、よみうりコンピュータ、読売エージェンシー、読売コミュニケーションズ、読売アドセンター、読売観光バス、旅行読売出版社、東京読売サービス、読売不動産、読売ゴルフ、読売西部サービス、アートよみうり、読売システック、読売映像、アド読売、読売中部インフォメーションサービス、読売東海広告社、コミックス

大阪本社



読売テレビ放送、日新放送、読売情報開発大阪、読売企画開発、大読社、読宣、読売連合広告社、読売エージェンシー大阪、大阪読売不動産、大阪読売サービス、よみうり文化センター、大阪よみうり文化センター、東宝読売文化サロン

西部本社


読売広告西部、読売西部アイエス、読売西部情報開発、西部読売文化センター、よみうりFBS文化センター、スポーツ報知西部本社

読売新聞の歩み



[明治]



3年(1870)	4月	横浜・弁天通に日就社誕生	
7年(1874)	11月 2日	日就社が読売新聞を創刊。初代社長・子安峻	
9年(1876)	11月 11日	新聞業界で初めて紙型鉛版印刷採用	
10年(1877)	5月 12日	本社を銀座に移転	
12年(1879)	1月 4日	1面に論説欄の「雑譚」を掲載開始	
19年(1886)	1月 4日	本紙で初の連載小説。「鍛鉄場の主人」(ジョルジュ・オナー作、加藤瓢乎訳)	
21年(1888)	8月 7日	磐梯山噴火で国内初の「報道写真画」掲載	
30年(1897)	1月 1日	尾崎紅葉の「金色夜叉」連載開始	
39年(1906)	10月 2日	スポーツ面の前身の「運動界」始まる	

[大正]

3年(1914)	4月 3日	「よみうり婦人附録」新設。日本で初めて女性向けに毎日1ページ編集	
	8月 1日	横浜に初の地方支局を開設	
6年(1917)	4月 27日	わが国初の駅伝「東海道駅伝徒歩競走」を実施	
	12月 1日	合名会社日就社を合名会社読売新聞社と改称	
12年(1923)	9月 1日	関東大震災で本社社屋全焼	
14年(1925)	11月 15日	各社に先がけて「よみうりラヂオ版」を発行。テレビラジオ欄の前身	

[昭和]


6年(1931)	11月 25日	平日夕刊発行開始	
	11月 26日	社説を常設	
9年(1934)	12月 26日	わが国初のプロ野球「大日本東京野球倶楽部」(現・読売巨人軍)創立	
17年(1942)	8月 5日	読売新聞と報知新聞が合併、題号が「読売報知」となる	
20年(1945)	5月 25日	B29による空襲で本社社屋炎上	
	9月 15日	有楽町1丁目の読売別館(現読売会館)に移転	
21年(1946)	5月 1日	題号を「読売新聞」に復元	
	9月 1日	「読売信条」発表	
22年(1947)	12月 6日	読者投票で選ぶ「日本十大ニュース」の募集開始	
24年(1949)	3月 1日	1面コラム「編集手帖」常設(53年8月から「編集手帳」)	
25年(1950)	2月 17日	有限会社から株式会社に改組	
27年(1952)	11月 25日	「大阪読売新聞」発刊	
28年(1953)	8月 28日	日本テレビ、本放送を開始	

29年(1954)	3月 16日	「第五福竜丸被ばく」をスクープ	
30年(1955)	4月 1日	日刊英字新聞(現在のデイリー・ヨミウリ)を発行	
37年(1962)	4月 1日	読売日本交響楽団設立	
39年(1964)	9月 23日	西部本社が発行開始	
41年(1966)	6月 30日	本社主催でビートルズ日本初公演	
46年(1971)	10月 29日	東京本社の手町新社屋完成	
49年(1974)	10月 11日	天皇、皇后両陛下が本社をご視察	
50年(1975)	3月 25日	「中部読売」発刊	
52年(1977)	2月	本紙発行部数720万1056部(ABC公査)で日本一を達成。以後日本一の部数を続ける	
57年(1982)	2月 19日	読売・日本テレビ文化センター発足	
61年(1986)	10月 19日	コンピューターによる編集システムが東京本社で完成(新聞制作から活字が消える)	

[平成]

4年(1992)	9月 1日	長期連載「医療ルネサンス」スタート(94年10月に新聞協会賞)	
6年(1994)	5月	ABC公査で1000万部突破	
	11月 3日	初の提言報道となる「読売憲法改正試案」を発表	
7年(1995)	6月 16日	本社ホームページ開設、インターネットで情報発信開始	
11年(1999)	2月 1日	中央公論社が読売グループ傘下に入り、中央公論新社としてスタート	
12年(2000)	1月 1日	新「読売信条」制定	
	1月 26日	読売新聞販売店の全国統一名称をYC(読売センター)に決定	
13年(2001)	5月 10日	読売新聞記者行動規範を制定	
14年(2002)	3月 1日	本社と日本テレビ共同制作の新CSデジタル放送「G+」チャンネルを開局	
	5月 30日	プランタン銀座の経営開始	
	7月 1日	持ち株会社「読売新聞グループ本社」のもとに、新聞3社(東京・大阪・西部各本社)と中央公論新社、読売巨人軍の5社を配する新体制をスタート	
18年(2006)	6月 1日	インターネットを使った無料会員制サービス「yorimo(ヨリモ)」がスタート	
19年(2007)	9月 1日	銀座に商業ビル「マロニエゲート」開業	
	6月 20日	第54回カンヌ国際広告祭で、渡辺恒雄グループ本社会長が「メディアパーソン・オブ・ザ・イヤー」受賞	
	10月 1日	日経、朝日と、インターネットの共同サイト運営や販売事業における業務提携などに合意	
20年(2008)	1月 31日	日経、朝日とのインターネット共同サイト「新s(あらたにす)」開設	
	3月 31日	紙面を12段組に移行、23%拡大の「メガ文字」導入	
21年(2009)	2月 27日	米有力経済紙ウォール・ストリート・ジャーナルと多角的提携	
	10月 29日	医療・介護・健康情報サイト「yomiDr.(ヨミドクター)」開設	
22年(2010)	3月 31日	読売大手町社屋の建て替え(2014年新社屋竣工)を発表	
	9月	大手町社屋から銀座社屋へ一時移転	



購読のお申し込みは  または ☎ 0120-4343-81 YOMIURI ONLINE <http://www.yomiuri.co.jp/>

編集: 読売新聞東京本社宣伝部 / 発行日: 2010年11月 / デザイン: モダングラフィティ / 印刷・製本: 凸版印刷